




月	注意・喚起	過去の土砂災害	
4月		<p>【昭和44年(1969.4.26)】</p> <p>●地すべり 場 所：旧北魚沼郡広神村水沢新田地内 (現魚沼市) 被害状況：84万m³の膨大な土塊が泥流となって全長950mを流走。土石流は斜面末端を流れる小屋柄川を埋塞。人家10戸が埋没倒壊。死者7名。行方不明1名。</p>	
5月	<p>春先は気温が上昇し、雪解けに伴う地すべりや雪崩が発生しやすい時期となりますので注意が必要です。</p>	<p>【昭和22年(1947.5.19)】</p> <p>●地すべり 場 所：旧西頸城郡能生町柵口地内 (現糸魚川市) 被害状況：被害面積200ha。倒壊家屋53戸。</p>	
		<p>【昭和53年(1978.5.18)】</p> <p>●地すべり 場 所：旧中頸城郡妙高村、赤倉山山腹の国有林。(現妙高市) 被害状況：白田切川流域に土石流災害発生。旧妙高高原町新赤倉地内で倒壊破損家屋24戸、死者13名。信越線112日間不通。</p>	
6月	土砂災害防止月間	<p>毎年6月1日～30日は土砂災害防止月間、6月1日～7日はがけ崩れ防災週間、として全国で土砂災害の周知活動が行われています。</p>	<p>新潟県においても「砂防ニュース」等を発行し、広報活動を行っています。</p>
7月	<p>梅雨の大雨・長雨によって土砂災害が発生しやすくなります。土砂災害の多くは雨が原因で発生しますので、特に注意が必要です。</p>	<p>【平成7年(1995.7.10～)】</p> <p>●7.11水害 場 所：県全域、関川・姫川両水系を中心とした上越地方 被害状況：姫川決壊。岩船神林村 百川氾濫。両津市梅津県道で地すべり。北陸道一部通行止め。中頸妙高高原町、岩船朝日村など各地で土砂崩れ。JR羽越本線、米坂線不通。住宅全壊4棟。死者1名。</p>	
		<p>【平成16年(2004.7.13)】</p> <p>●7.13水害 場 所：中・下越地方中心に集中豪雨。特に栃尾市(現長岡市)に集中豪雨。 被害状況：342件の土砂災害が発生。床上浸水2,178棟。死者15名。</p>	
		<p>【平成19年(2007.7.16)】</p> <p>●7.16中越沖地震 場 所：中越地方沖を震源とする地震。最大震度6強を計測。 被害状況：住宅全壊1,259棟。死者14名。</p>	

7月	<p>梅雨の大雨・長雨によって土砂災害が発生しやすくなります。土砂災害の多くは雨が原因で発生しますので、特に注意が必要です。</p>	<p>【昭和41年(1966.7.17)】</p> <p>●土石流 場 所：旧北蒲原郡黒川村胎内地内(現胎内市) 被害状況：全半壊家屋3棟。死者1名。</p>	
		<p>【平成23年(2011.7.27~30)】</p> <p>●23年新潟・福島豪雨 場 所：中越地方中心に集中豪雨 被害状況：227件土砂災害発生。人家全壊9棟。</p>	
		<p>【平成25年(2013.7.29~8.1)】</p> <p>●25年7月豪雨 場 所：長岡市、佐渡市に集中豪雨 被害状況：76件土砂災害発生。死者1名。</p>	
8月	<p>夏から秋には台風による豪雨や秋雨前線の影響による長雨によって土砂災害が発生しやすくなります。休暇を利用したレジャーも多くなるこの時期ですので、最悪な事態にならないよう気象情報に気を配りましょう。</p>	<p>【平成10年(1998.8.4)】</p> <p>●8.4水害 場 所：県内佐渡・下越地方中心に集中豪雨。 被害状況：各地で土石流・地すべりによる被害が発生。迅速な避難等により人的被害なし。</p>	
		<p>【昭和42年(1967.8.28~29)】</p> <p>●羽越水害 場 所：下越地方で集中豪雨。 被害状況：降雨は荒川、加治川、阿賀野川流域に広がり、加治川の破堤、山間部では土石流の発生。死者96名。</p>	
9月		<p>【昭和23年(1948.9.16)】</p> <p>●土石流 場 所：南魚沼郡湯沢町 被害状況：アイオン台風による土石流災害発生。湯沢第1号えん堤決壊。</p>	
10月		<p>【平成23年(2004.10.23)】</p> <p>●中越大地震 場 所：中越地方を震源とする地震。最大震度7を計測。 被害状況：住宅全壊3,177棟。死者46名。</p>	

11月	<p>雨によって弱まった地盤が、時間差で土砂災害を引き起こすことがあります。異常な兆候には注意を払いましょう。</p>	<p>【昭和37年(1962.11.4)】</p> <p>●地すべり 場 所：旧東頸城郡松之山町(現十日町市) 被害状況：同年4月より異常な兆候が現れ、11月4日から大松～兎口にかけて滑り出す。被害面積850ha。倒壊家屋371棟。</p> 
12月	<p>雪崩防災週間</p>	<p>毎年12月1日～7日は、雪崩防災週間です。</p> <p>新潟県においても雪崩についてのパンフを発行等行い、広報活動を行っています。</p>
	<p>この時期は雪が降り積もり、雪崩が発生する可能性があります。雪崩には厳冬期に多く起きる「表層雪崩」と春先に多く起きる「全層雪崩」があります。</p>	<p>【平成8年(1996.12.6)】</p> <p>●12.6蒲原沢土石流災害 場 所：糸魚川市大所(長野県境)蒲原沢 被害状況：災害復旧事業に従事する作業員死者14名</p>
	<p>この時期は雪が降り積もり、雪崩が発生する可能性があります。雪崩には厳冬期に多く起きる「表層雪崩」と春先に多く起きる「全層雪崩」があります。</p>	<p>【昭和32年(1957.12.13)】</p> <p>●地すべり 場 所：旧中頸城郡妙高高原町南地獄谷(妙高市) 被害状況：死者2名</p>
	<p>この時期は雪が降り積もり、雪崩が発生する可能性があります。雪崩には厳冬期に多く起きる「表層雪崩」と春先に多く起きる「全層雪崩」があります。</p>	<p>【昭和55年(1980.12.30)】</p> <p>●地すべり 場 所：長岡市濁沢地内 被害状況：通称中沢山北側斜面で発生。翌年1月3日まで地すべり滑動が続いた。倒壊破損家屋12棟。</p>  <p>【昭和32年(1957.12.31)】</p> <p>●妙高温泉地獄谷地すべり 場 所：旧中頸城郡妙高村赤倉山山腹(現妙高市) 被害状況：建物被災2棟。死者1名</p>
1月	<p>気象情報などに気を配り、危険な場所には近づかないようにしましょう。</p>	<p>【昭和56年(1981.1.7)】</p> <p>●雪崩災害 場 所：旧北魚沼郡守門村大倉(現魚沼市) 被害状況：民家全半壊4棟。死者8名。</p> <p>【昭和56年(1981.1.18)】</p> <p>●雪崩災害 場 所：旧北魚沼郡湯之谷村下折立(現魚沼市) 被害状況：老人ホームが直撃。死者6名。</p> <p>【昭和61年(1986.1.26)】</p> <p>●柵口雪崩災害 場 所：旧西頸城郡能生町柵口地内(現糸魚川市) 被害状況：倒壊破損家屋、全壊8棟。半壊2棟。死者13名。重軽傷者9名。</p> 

2月		<p>【昭和59年(1984.2.9)】</p> <p>●雪崩災害 場 所：旧中魚沼郡中里村清津峡温泉(十日町市) 被害状況：温泉旅館含み全壊2棟。死者5名。</p>
		<p>【昭和60年(1985.2.15)】</p> <p>●玉ノ木地すべり 場 所：旧西頸城郡青海町市振字玉ノ木地内。 (現糸魚川市) 被害状況：倒壊破損家屋、全壊5棟。半壊2棟。寺 神社全壊2棟。死者10名。重軽傷者4名。</p> 
3月	<p>この時期は雪が降り積もり、雪崩が発生する可能性があります。 雪崩には厳冬期に多く起きる「表層雪崩」と春先に多く起きる「全層雪崩」があります。 気象情報などに気を配り、危険な場所には近づかないようにしましょう。</p>	<p>【平成24年(2012.3.7)】</p> <p>●国川地すべり 場 所：上越市板倉区国川地内 被害状況：幅約150m、長さ約500m、移動距離約250m、移動土砂量約750,000m³。 家屋全壊4棟。空き屋全壊1棟。作業所全壊4棟。車庫全壊2棟。</p> 
		<p>【昭和38年(1963.3.16)】</p> <p>●小泊地すべり 場 所：旧西頸城郡能生町小泊地内 (糸魚川市) 被害状況：北陸線を日本海へ押し出し、列車転覆。 倒壊破損家屋31棟。死者2名。重軽傷者21名。</p> 
		<p>【昭和37年(1962.3.17)】</p> <p>●地すべり 場 所：旧栃尾市新山地内(現長岡市) 被害状況：倒壊家屋4棟。死者6名。</p>
		<p>【昭和41年(1966.3.18)】</p> <p>●地すべり 場 所：旧南魚沼郡大和町浦佐地内(現南魚沼市) 被害状況：死者8名。</p>